

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

日経MJ 2016年 3月 9日付

都市の魅力高めるには

先週末、東京の大井町駅の近くにある四季の劇場にリトルマーメイドというミュージカルを見に行った。ディズニーのアニメをブロードウェイでミュージカル化されたものを、さらに日本で改良したものであるという。初演から3年も続いているロングランの作品だ。それでもまだ満員が続く。チケットが非常に取りにくいほどの人気であるという。

この大井町の劇場は、東日本旅客鉄道(JR東日本)の施設を利用したものだ。JR東日本にとっては古くからの施設を有効利用する上で有意義であるだけでなく、劇場に来場する人の電車利用も期待できる。JR東日本は大井町の施設以外に、浜松町駅近くの施設を17年前から劇団四季に劇場



伊藤元重の

エコノウオッチ

用地として貸しているが、こちらにはこの間に1100万人の来場者があったという。その鉄道収入だけでも大変な額だ。

浜松町に劇場を作る前は、劇団四季はテントでの興行をしていたそうだ。当時のJR東日本のトップが劇団のトップと意気投合して、JR東日本の土地に劇場が作られることになった。劇団四季は、足の便のよいJRの駅の近くに常設の劇場を設けることで、観客を増やすことに成功した。鉄道とその駅周辺の施設の間には相互に強い外部性が働く。鉄道の便がよいことが周辺の施設の価値を高め、多くの人が来場する施設があることで鉄道の利用が増えるのだ。

鉄道事業にとつては周辺の施設との相乗効果を発揮

駅周辺に集客施設を

することが成功の重要な鍵となる。私鉄ではこの企業も百貨店・住宅・スーパー・ホテルなどのビジネスを行っている。西武鉄道のよつに球場運営までしているところもある。

民営化したJRがそうした鉄道沿線の事業を活性化させていくことは当然のことだろう。JR東日本は駅中ストアや駅施設を利用したルミネなどの小売事業を積極的に展開している。小売業の世界では重要なプレーヤーの一角となっている。

駅の近くにある商業施設はそれだけで立地上の強い競争力を発揮する。また、そうした施設が存在が鉄道利用をさらに増やすことにつながる。

劇団四季の話に戻ろう。劇団の方の話によると、韓国人や中国人の団員も結構多いという。グローバル化の時代に、より広い地域から有為な人材を集めるのは

当然のことだろう。相撲や野球でも海外の人が活躍する時代。日本のミュージカルで海外の劇団員が増えるのは、歓迎すべきだろう。

その上で、団員だけでなく観客でもアジアの人を増やしてほしいものだ。ニューヨークのブロードウェイは世界中の観光客を集めている。ブロードウェイの存在が、観光都市としてのニューヨークの価値を高めている。

日本が観光立国としてさらに成長拡大するためには、四季の劇場のような所にもっと外国人の客を呼べるようになってほしいものだ。東京のような都市の魅力さをさらに高めるためには、世界に冠たる鉄道ネットワークの駅の周辺に、四季劇場のような魅力的な施設を増やして行く必要がある。

(東京大学大学院
経済学研究科教授)